



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R8 年度 CS通信No.6 R8.7.17

(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦



～柑橘について学ぼう～西海小 2・3・4 年



7月2日(木)、食育の授業が行われました。

子どもたちは、これまで佐藤ファームさんなどでりんご栽培の作業(実すぐり)を体験しながら、栽培方法や仕事の苦労について学んできました。

今回は、愛媛県から柑橘農家である井上さんをお招きし、栽培方法や仕事の苦労について学び、違いを比べてみることにしました。

まず、地元でりんごを育てている佐藤さんから、絵本を交えながらりんご作りについてのご紹介がありました。

次に、愛媛県の柑橘農家である井上さんから、柑橘作りについてのお話がありました。

愛媛県は「柑橘王国」と呼ばれ、40種類もの柑橘が一年中収穫できるそうです。柑橘は四国や九州など、南の暖かくて海に面した地域で多く作られています。成長に欠かせない太陽の光に加え、石垣に反射する光も生かして育てられていることも、学びました。

また、柑橘作りの仕事には、苗木植え、肥料やり、草刈り、摘果、防除(消毒)、水やり、収穫、運搬、貯蔵、出荷など、たくさんの工程があるという説明がありました。

子どもたちは、りんご作りと柑橘作りの栽培方法や仕事の苦労を比べ、よく似ているところと大きく違うところがあることに気づきました。

遠い土地で行われている柑橘作りの栽培方法や仕事の苦労を知ることで、改めてりんご作りの大変さや、地元・鯨ヶ沢の良さを実感できる貴重な機会となりました。

議場見学とミニ議会体験 ～西海小 6 年～



7月6日(月)、西海小学校の6年生が町議会の議場を見学しました。

陳情書の提出や、議会の仕組み・議員の仕事について説明を受けたあと、子どもたちが議員になりきる「ミニ議会」に挑戦しました。

議題は、「学校給食にデザートを増やす」「大高山総合運動公園に地元木材の遊具やアスレチックを作る」の2つです。担当課長の提案に対し、議員役の児童が鋭い質問を行い、本格的な審議の末、見事どちらも賛成多数で可決されました。

児童からは「難しかったけれど、ワクワクして真剣に取り組めた」「議場のカメラなどの機械に驚いた」といった感想があがりました。

教育長からも「進行も発言も上手でした。話し合いで物事を決めるという大切な意思決定ができましたね」と、お褒めの言葉をいただきました。

**鯨ヶ沢中学校全学年で「ふるさと学習発表会」
第2学年は防災のバトンを次世代へ！**



7月9日(木)、この日は、フリー参観日を利用して全学年でふるさと学習の発表をしました。

第1学年は、「AjiDGs2026 鰯ヶ沢の環境について」～海の豊かさを守ろう～、第3学年は、「ふるさと応援隊 aji-Tube」開設 「鰯ヶ沢を応援する動画を作成」でした。

第2学年は、「鰯ヶ沢町の災害から今を学ぶ」で、自分たちでできる防災や減災を町内の小学6年生に向けて発表しました。

中学生たちは「小学生に伝えること」を目標に準備を進めてきました。専門用語には丁寧な解説を入れ、難しい漢字にはふりがなを振るなど、小学生の目線に立った細やかな配慮が光りました。

さらに、途中にクイズを交えるなど、聞き手を飽きさせない工夫もあり、小学生たちは最後まで真剣に耳を傾けていました。

参加した小学生からは、
「水害の恐ろしさや、災害のことがよくわかった」
「普段からの備えが大事だと思った」
「難しい話も、中学生がわかりやすく説明してくれた」
「クイズがあって楽しかった」
など、頼もしい感想がたくさん寄せられました。

今回の発表会は、土木に関わる多くの方々への感謝の気持ちや仕事にかける思いを、中学生から小学生という「次の世代」へ見事にバトンタッチできた、大変すばらしい学習の場となりました。

地域の力で熱戦！ 舞戸小伝統の校内相撲大会



7月10日(金)舞戸小伝統の校内相撲大会が開催されました。今年も、町相撲協会をはじめ、五所川原農林高校相撲部、保護者、そして地域の皆様に、朝早くからテント張りやまわし着け等の多大なるご協力をいただきました。

試合は手に汗握る熱戦の連続で、男子会場の相撲場、女子会場の体育館ともに大歓声に包まれました。審判から「物言い」がついて取り直しになるほどの白熱した取組に、会場は大いに盛り上がりました。

勝負の厳しさだけでなく、負けて涙を流す友だ

ちを励まし、倒れた相手に手を差し伸べて助け起こすなど、相手を思いやる心優しい姿も数多く見られました。会場にいらした皆様からも
「優しい子どもたちだね」

と温かいお言葉が聞かれました。

地域の皆様に支えられ、子どもたちが心身ともに成長できるこの素晴らしい伝統行事を、これからも大切に引き継いでまいります。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

西海小・舞戸小5年生が合同学習！

アユ・イトウ養殖場を見学



鰯ヶ沢町には、魚介類の水揚げ量を確保するためにアユとイトウの養殖場があります。魚の増養殖は、町の営みとして、ふるさと学習の重要な柱ともなっています。また、小学校の統合を見据えて合同での校外学習を積極的に行っています。

7月13日(月)両校の5年生が合同で養殖場を訪問し、鰯ヶ沢町の水産業について学びました。

はじめに見学したアユ養殖場では、1日5～6回もえさやりをしていることや、成長に合わせて水槽に入れるアユの数を調整していること、オスとメスはひれの形で見分けることなどを教えていただきました。

続いて隣接するイトウ養殖場へ移動し、大きさに分けられた約2万匹ものイトウを見学しました。イトウは一生を川で過ごすため、本来は白身であること（えさで身を赤くしているそうです）、サケと違って産卵しても死なないことなど、驚きの生態を学ぶことができました。

また、5才（体長約50cm、体重約2kg）で出荷される一方で、平均寿命は20才と長く、過去には29才まで生きたイトウもいたそうです。

子どもたちは、「新しいことがたくさんわかって、来て良かった！」と目を輝かせており、地元の魅力を再発見する貴重な機会となりました。

お忙しい中、子どもたちに丁寧に説明いただいた養殖場の皆様に、心より感謝申し上げます。